

出向く宮農レポート

～安全安心ないちご栽培～



北部宮農センター 長久手地区担当
村瀬 淳

9月下旬に長久手にていちご栽培をしている與語さんのハウスへ訪問しました。
今回は與語さんが取り組んでいる安全安心ないちご栽培の取組みを紹介します。



與語さんは「章姫」という品種を3500株ほど栽培しています。

いちごは9月に定植を行い、12月上旬から中旬に収穫が始まります。

❑ いちごの花芽が外側を向くように定植していきます。



きれいになりました!

「章姫」は定植後1週間経ち、新芽が出てきているところでした。この頃に、クラウン※周りの古い葉を除去します。この作業は病気や虫が発生しにくくなるためには欠かせない作業です。

※イチゴの茎にあたる部位

UV-B電球



與語さんはあいち尾東のいちご部会に加入しており、今年の8月に開催した研究会で紹介したUV-B電球を今シーズンから新たに導入しました。

このUV-B電球は紫外線B波を照射することで、植物の免疫機能を活性化させ、うどんこ病やハダニの発生などを抑制する効果があるとされており、農薬散布の回数を減らすことができるため減農薬が期待できます。

11月以降は安心ないちごの提供を目的に農薬散布を減らすためハダニの発生を抑える天敵の「バンカーシート(ミヤコカブリダニ)」を使用しています。

これからも訪問しながら、安全安心な栽培をサポートするための情報提供などを続けていきます。

與語さんのいちごは、12月中旬から下旬に長久手グリーンセンターにて販売される予定です。安全安心、甘くてジューシーないちごをぜひ楽しみにしてください。